

2021 年度介護職員等特定処遇改善加算にかかる情報公表

野の花会では、ご利用されるお客様の方々へ常に質の高いケア環境を構築するとともに、働く職員にとっても負担の少ないケアの実践を行うために、ハード面からソフト面まで様々な取り組みを行っています。ここでは具体的に法人が行っている取り組みについて紹介していきます。

職場環境の改善への様々な取り組み（要件）

①介護ロボットを積極的に導入し労働環境を整え、お客様へのサービス品質向上と職員の業務負担軽減へとつなげる

平成25年度から介護テクノロジーを導入しており、今年度も各団体への補助金申請の継続を行いました。（現在、介護補助ロボット『HAL』：4台、次世代予測型見守りシステム『ネオスケア』：24台、AI搭載コミュニケーションロボット『パルロ』：4台、天井走行リフト、床走行リフト、スライディングシート、スライディングボード等を導入。）さらに鹿児島市の事業所には、インカム導入で職員間の情報共有を強化しました。

加えて、国や県の補助金による介護ケア記録システム及びコンピューター機器などの導入を積極的に行い、職員の業務負担軽減に努めています。

・介護補助ロボット及び自立支援型介護補助ロボット「HAL」の整備

6年前より導入しているサイバーダイナミクス社製介護補助ロボットスーツ「HAL」については、年々機能がバージョンアップしているために、リース契約という形で使用しています。機能が新しくなればその都度最新のバージョンを使用することが出来、負担の少ない介護を実践することが出来るようになります。（最新のバージョンはパッドなしでそのまま装着できるものを実践中）



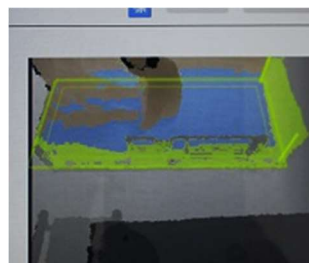
・コミュニケーションロボット「パルロ」の活用



富士ソフト社製コミュニケーション機器「パルロ」については、インターネット経由でAIに接続して使用しているため、時間が経過するほど学習していき、お年寄りとの会話がスムーズになってきています。職員の介護業務の負担軽減にも一役買っており、大事な野の花会のスタッフの一員です。

・次世代予測型見守りシステム「ネオスケア」の整備・活用

今年度はさらに補助金制度を活用し次世代型見守りセンサー「ネオスケア」の整備を行いました。画面のように、シルエットで携帯端末へベッドからの「起き上がり」をスタッフへ知らせることができ、**夜間帯の業務負担軽減**等に役立っています。



・AIケアプランの実践（ケアマネセンター）

お客様にあった複数のケアプラン案をAIが示し、その中から担当ケアマネが最適な案を選択し、プランに反映させることができるもので、上記の事業所で現在活用しています。

・自動寝返りベッドの採用

フランスベッド社製の自動寝返りベッドを導入しました。ご自分で体を動かすことが困難な方の寝返り支援を行い、看・介護スタッフの負担軽減につながっています。



これからの介護人材不足時代の到来を見越し、様々な介護業務の中で、機械で行えるところは可能な範囲で行ってもらい、AI・IOT活用について研修を通して業務体制づくりを行いました。

・ANAアバターインへの取り組みについて

普段中々面会が出来ない鹿児島県外にお住まいのご家族も、遠隔で操作できビデオ会話ができる仕組みを作るために、ANA ホールディングスの協力で「アバターイン」を試験的に導入、実際に使ったご家族には好評をいただいています。

※アバターイン…5G時代を迎えて可能になった、ご家族のカメラ付きパソコンからアバターインロボットを操作して自分自身の「分身」としてコミュニケーションを取ることが出来るロボット。介護施設では、遠方のご家族などからの面会等に力を発揮してくれます。



②地域包括ケアシステムに向けての人材育成

「地域であなたを生涯支えます」という思いのもと、法人全体で8施設38事業（令和3年3月現在）を展開してきました。これらの事業を活用して包括的に最期まで在宅で支えていくためには、法人内のそれぞれの事業所の特性を活かして、地域の中で医療・介護を総合的にマネジメント出来る人材を育成する必要性がありましたので、地域が主催するオンライン等の研修会については積極的に参加をして人材育成に努めています。

③国家資格取得への支援

5年前から継続している介護福祉士資格取得支援講座（職員は無料）などを昨年度も法人主催で行い、国家試験合格へ繋げることができました。今年度も9月より実施しています。

④人事考課による評価

人事考課制度については、就業規則や給与規程などに基づいて、一定の評価を得たパート職員の正職員登用など、年々変化する社会環境にふさわしく制度を見直し、実践しています。

⑤スタッフ専用の職員寮の整備

現在使用しているスタッフ専用のマンション（加世田益山、18室（40㎡/部屋）、旧なでしこの建物（加世田村原、10室）に加えて、アパートをもう1棟整備（加世田東本町、8室）して外国人を含めた職員の福利厚生の一環としました。

※外国人スタッフの生活環境について…生活面や日本語指導については専任のスタッフがつき、心のケアをする人（加世田のお母さん）も看護師をはじめ、地域の女性2人が引き続き支援しました。また派遣先の組織（EPA等）とも連絡を頻回に行っており、来年度以降も引き続きスタッフの入職について連携して行っています。（現在21名が元気に働いています）

生活面では、職員寮の整備（益山・村原・東本町の3カ所）と洗濯機・冷蔵庫・レンジ・通勤用自転車（22台）等も支給しています。

⑥介護福祉機器の効果的な活用

これまで数多くの福祉用具・福祉機器を購入して使用していますが、スタッフからのリクエストもあり『お客様にとっても介護スタッフにとっても優しい介護』を目指して介護技術コンサルタントの市川洸氏を講師として招いて介護技術講習会を引き続き実施しました。（現在はコロナ禍の移動制限により中断



中）それぞれ専用の介護機器を正しく使いこなし、持ち上げない介護の実践について探求しました。反面、日中オムツゼロを実践している法人として、どうしても持ち上げなければならない介護の現場（トイレなど）ではスタッフの介護軽減のため、先述の介護支援ロボット等を活用、介護環境の改善を図っています。

⑦企業主導型保育事業

小さな子供をもつ職員でも安心して働けるように、クリニックに隣接して企業主導型保育事業「キッズ野の花」を整備しています。現在定員19名のところ、ほぼ満員のお子様たちを預からせていただいています。また地域の方も最大9名まで預かることができます。働く女性を、（子供の世話や老親の介護なく）安心して働けるようにサポートできています。

